

# 『今月の天候と農作業』

通巻第5530号  
4月号  
平成23年4月1日発行  
宮崎県  
宮崎地方気象台



## 【九州南部1か月予報】

向こう1か月の気温、降水量及び日照時間の各階級の予想される確率は次の通りです。

## 【確率(%)】

要素	予報対象地域	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	九州南部	40	40	20
降水量	九州南部	50	30	20
日照時間	九州南部	20	30	50

## 【概要】

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年に比べ晴れの日が多い見込みです。

平均気温は平年並または低い確率ともに40%、降水量は、少ない確率が50%です。日照時間は、多い確率が50%です。

<1週目の予報> 4月2日(土)～4月8日(金)

向こう1週間は、期間の前半は気圧の谷の影響で曇りの日が多く、雨の降る所があるでしょう。後半は高気圧に覆われて晴れる日が多いでしょう。

(詳しくは週間天気予報をご利用ください。)

気温は、1週目は、九州南部で低い確率が70%、奄美地方で低い確率が80%です。

<2週目の予報> 4月9日(土)～4月15日(金)

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年に比べて晴れの日が多い見込みです。

<3週目から4週目の予報> 4月16日(土)～4月29日(金)

天気は数日の周期で変わるでしょう。九州南部は平年と同様に晴れの日が多く、奄美地方は平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。

<次回の発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は4月8日

3か月予報：4月25日(月曜日) 14時

## 普通作物

### ◆ 早期水稻

---

昨年は、田植え後の寒波、強風により葉先枯れが発生し生育が遅れました。

今年も、低温や強風の情報に注意し、適切な水管理を行いましょう。

#### ■1 水管理

田植え後の1ヶ月は、早期に分げつを確保するために丁寧な水管理が必要です。特に活着までの約1週間は、植え傷みと低温や強風から保護するため深水にします。活着後は暖かい日中は浅水とし、水温を上げて生育と分げつを促します。

#### ■2 病虫害対策

補植用のつけ苗は、葉いもちが発生しやすく、発生源となりますので、補植が終了したら早めに処分しましょう。

#### ■3 除草剤

除草剤には、ノビエの葉期で処理晩限が表記されています。早期水稻でのノビエの葉齢の展開日数の目安は、一葉期が移植後9日目、二葉期が12日目となります。ただし、代かきから移植までの日数や天候によってはノビエの生育が早くなる場合がありますので散布が遅れないように注意しましょう。

軟弱徒長した苗は、深水で傷みやすく、田植え直後の苗は、低温に遭うと衰弱してしまい薬害が出やすくなります。苗が弱っている場合は、除草剤の処理期限内まで苗の回復を待って散布しましょう。

近年、投げ込み型のパック剤やフロアブル剤等の手軽な除草剤が普及していますが、一方で処理時の水深不足による薬害の発生が増加しています。薬剤の拡散を促すために、処理時は最低5%の水深を確保しましょう。

水管理の良否が除草効果に大きく影響しますので、散布前は畔や水尻から漏水がないか確認し、散布後は掛け流しにせず1週間程度は水尻を閉め止水しましょう。

#### ■4 用水不足対策

今年は、1月から降水が少なく用水の少ない地域では、水不足が懸念されていますので、次の点に注意してください。

分げつ期は、2～3日ごとに走り水程度のかん水で間に合わせ、除草剤の散布は、用水が十分に確保されるまで見合わせましょう。また、いもち病の抵抗性が弱くなりますので、早期発見に努め防除を行いましょう。

### ◆ 麦類

---

#### ■1 排水対策

降雨が続くと湿害が発生しますので、排水溝を整備します。

#### ■2 病虫害防除

赤かび病の予防のため、穂ぞろい期とその7日～10日後の2回の薬剤防除を徹底しましょう。

(小森 盛三)

## 果菜類

### ◆ピーマン

---

4月に入ると、夜間の生育適温が高いピーマンでも内カーテンを下ろすと加温機が作動する時間が短くなります。それにより、夜間の空中湿度が高くなり、病害が発生しやすい条件が続きます。このため、ハウス外の最低気温が14℃以上の場合には、内カーテンは開放し、暖房機が稼働するように管理します。さらに、16℃以上の場合には外ビニルも開けて湿度低下に努めます。

また、日中は内カーテンや遮光資材を利用することで、日射量を調節するとともに、換気に努め、ハウス内の温度を30℃以下で管理します。

### ◆トマト・ミニトマト

---

ミニトマトは気温上昇にともない、裂果が多くなるので、かん水量に注意します。

また、空中湿度を下げるため日中の換気を徹底し、1日おきに収穫を行います。

トマトは、高温で乾燥すると尻腐果の発生が多くなるのでかん水量を多くします。また、草勢が低下すると小玉果が発生しますので追肥が遅れないように注意します。

### ◆いちご

---

次年度の育苗時期になります。

「さがほのか」は、炭疽病が発生しやすい品種なので、薬剤防除と以下に示す耕種的な防除対策を組み合わせる行うことが重要です。

- ① 感染していない健全な親株を使用する。
- ② 伝染源からの病原菌の飛散を防止する。

特に、感染株を早期発見し除去することが重要な対策となります。怪しい株を発見した場合には、周辺の株も使用しないことが重要です。

- ③ 発病させない環境条件づくりに努めます。

育苗床はビニルで被覆し、高設ベンチで育苗を行い、降雨による伝染を防ぎます。また、かん水は水が跳ね返らないようにかん水チューブ等で行います。

(塘 俊一)

### 葉茎菜類及びいも類

3月はまとまった降雨もなく、ほ場が乾燥気味となっていますが、土壌が乾燥した状態でマルチ被覆を行うと、発芽不良や生育障害、品質低下につながりますので適当な土壌水分(手で握って団子になる程度)の時にマルチ畝立てを行いましょう。

### ◆スイートコーン

---

大型・小型トンネル栽培は、4月上・中旬の雄穂抽出期が追肥の時期となります。雄穂が出始めたら窒素成分で5～6kgを追肥しましょう。追肥の時

期が遅れると効果がありませんので適期に施用することが重要となります。雄穂抽出後10日から2週間後に雌穂(絹糸)が抽出し、その部分が果実となりますが、ボリュームがあり先端まで充実したスイートコーンを生産するためには、土壌水分が必要となりますので、通路への湛水等を行うとともに、トンネル内の高温による葉焼け等を防止するため、ビニルの除去及び開閉管理には細心の注意を払いましょう。また、株基からの分けつは、光合成による養分確保を行いますので、除去しないようにしましょう。

#### ◆ さといも

---

早生種のマルチ栽培は萌芽の時期となります。芽の日焼けは霜焼けより生育が遅れますので、萌芽を始めたらマルチに穴を開けて芽出しをおこないます。また、中生さといもは植付期となりますが、マルチ内が乾燥していると、芋肥大期の生理障害等を助長しますので、マルチ被覆前の適度な土壌水分が必要となります。

#### ◆ 食用かんしょ

---

マルチ栽培の植え付け時期となります。苗床は外気にならしかん水も徐々に減らし苗の馴化を図ります。採苗は苗の養分が最高となる晴天日の11時頃から14時頃に行いましょう。いもになる根は、植え付け後、20日位で決まりますので、良苗と地温・土壌水分を十分確保して活着を図ります。いもが丸くなる生育環境要因は、高温、乾燥、耕土が浅い等が要因です。丸いも率の高い方はこれらの対策を講じましょう。

(郡司 孝幸)

### 果樹

#### ■1 常緑果樹

##### ◆ かんきつ全般

---

今年は表年に当たり、着花数が多いことが予想されます。近年は、発芽から開花までの期間が短く、花の充実不足に伴う生理落果が見られます。花の充実のために、開花期までに、窒素主体の葉面散布を数回行いましょう。また、今年は降灰の影響により冬季のマシン油乳剤散布が行えなかった園地が多く見られます。発芽後のダニの発生に注意し、発生初期の防除を実施しましょう。

##### ◆ 完熟きんかん

---

剪定の終わっていない園は、急いで実施しましょう。たっぷりのかん水・春肥の施用・土壌改良資材や完熟堆肥等の有機物の投入によって、樹勢回復を図りましょう。結果枝の充実を図るために、新梢の発芽期から、窒素主体の葉面散布を数回行いましょう。

##### ◆ 日向夏

---

日向夏の結果安定には、人工受粉の実施が必須となります。適切な条件で花粉を採取し、精製してから受粉に利用しましょう。精製した花粉は発芽

率の調査をした上で、適正な倍率に希釈してから受粉に利用しましょう。

#### ◆マンゴー

---

収穫が近づくにつれて、果皮が弱くなり、結露によって表面の細胞が破裂し、やに果が増加してきます。早朝の換気や敷きわら等による湿度調節によって結露を防止しましょう。

また、新芽の発生の増加にあわせて、アザミウマ類の発生が多くなります。発生した新芽をすべて除去し、アザミウマ類の発生を防止しましょう。

### ■2 落葉果樹

#### ◆かき

---

摘蕾は、生理落果後の摘果に比べて、樹体養分の確保や翌年の花芽分化に有効です。開花始めの頃から2部咲までの間に実施しましょう。1結果枝当たり1花を原則とし、長い結果枝には2～3花にしましょう。

(山口和典)

#### 花き

#### ◆電照ギク

---

日中の気温が高くなる時期ですので、ハウスの換気を徹底し、茎葉のしまった水揚げの良い切り花にします。天候は比較的良い予報ですが、白さび病が発生しやすい環境が続いているので予防中心の防除に心がけてください。また、マメハモグリバエ等の害虫の発生も多くなってくるので、定期的な防除を心がけてください。

秋ギクの親株育成の時期です。育苗は作型と穂冷蔵の有無等の条件を考慮し、所要日数を計算して計画的に作業を進めてください。

#### ◆夏秋ギク

---

8月出荷作型の挿し芽を中旬から順次行います。

過剰な肥料の投入は柳芽、貫生花等の生理障害の原因となりますので事前に土壌分析を実施して投入量を決めてください。5、6月出荷作型の「フローラル優香」は、低温により貫生花の発生が増加しますので、4月いっぱいまでは10度、消灯後3週間程度は16度を保ち、その後はハウスの開閉を行い温度を保つようにしてください。ジベレリンの散布は系統により回数、濃度を考慮しましょう。

#### ◆スイートピー

---

受粉～子実の肥大期になります。サヤについている花卉は灰色かび病の発生原因になりますので、天気の良い日にネットをゆすり花卉を落としてください。受粉時期のかん水、施肥管理は草勢を見て必要に応じて液肥を施用してください。莢が大きくなり始めたら徐々に薄い液肥を施用してください。

## ◆ホオズキ

---

十分に光が当たるように、間引きを早めに行い株の充実を図りましょう。7月出荷予定の作型では4月中、下旬から確実に着果を行う必要がありますので、中、下旬にはマルハナバチを導入し着果の促進を図りましょう。また、最低温度が10度を下回ると、花粉の発芽が悪く着果不良となりますので、温度管理には注意しましょう。立ち枯れ性病害は7～8月に多発しますが、生育初期からの防除がポイントですので必ず防除を行いましょう。

## ◆シキミ

---

春芽の萌芽時期になります。定期的な防除を実施し黒シミ斑点病やサビダニ類の発生を抑えましょう。

## ◆ラナンキュラス

---

出荷が終了したほ場で球根養成に入る場合は、ウイルス罹病株を抜き取り焼却か埋却処分を行います。養成株については、蕾を摘除し、球根の肥大を促します。

## ◆一般切花

---

トルコギキョウ・デルフィニウムなどの出荷期が続きます。曇雨天が続くと灰色かび病が発生しやすくなります。防除を徹底するとともに日中の換気を良くして品質の高い切花栽培を心がけましょう。

(中村 広)

## 畜産・飼料作物

4月は、寒い日と温かい日が数日の周期で変わる上、日々の変動が大きいのが特徴で

す。気温の大きな変化は、特に幼畜にとってストレスになりますので、温湿度を十分確保すると同時に、暖かい日中に換気するように心がけます。

害虫が活動を始める時期です。ハエ等は発生してからでは遅いので、牛舎の清掃や消毒をこまめに行い、発生場所をなくすことが重要です。ふん尿は畜舎に溜めないようにし、たい肥舎では、切り返し回数を増やし発酵温度を上げることで、良質なたい肥の製造はもとより殺虫もできます。

今月はとうもろこし・ソルガムの播種時期です。飼料価格は今後も高止まりすることが考えられますので、計画的な作付け拡大を行いましょう。降灰の影響を避けるため、作付時期や収穫時期が重ならないよう品種をばらして作付けするようにしましょう。また、適正施肥、栽培基準を守るとともに、除草剤の使用に当たっては、他の作物へ飛散しないよう、風が強い日の散布作業は避けましょう。

暖かくなるとともに、イタリアンライグラスの生育が盛んになりますが、倒れる前に利用するようにしましょう。イタリアンライグラス1番草は栄養価が高く、子牛用の粗飼料として最適ですので、晴天が続く時期に良質の乾草を確保します。なお、収穫したイタリアンライグラスに硝酸態窒素の含有率が高いことがあるので注意します。葉の色が通常より濃い場合などは最寄りの西白杵

支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）にご相談ください。

北諸県・西諸県・南那珂地域を中心に新燃岳噴火による降灰が続いています。ほ場に堆積した火山灰が多い場合はできるだけほ場外に持ち出すとともに、作付け前には十分耕起するようにしましょう。

（須崎 哲也）

## 工芸作物

### ◆ 茶

---

3月の気温が低めに推移し、一番茶の萌芽は、早生で昨年より4～5日程遅く、今後も低温が続くと摘採は例年並かやや遅いと予想されます。

#### ■1 防霜対策

生育に合わせた設定温度の確認とともに、遅霜注意報時にはファンの首振り、回転方向、スプリンクラーのヘッドの詰まり、回転等を再確認し、人為的ミスによる被害の回避に努めてください。

#### ■2 施肥と防除

萌芽状況にあわせ、芽出し肥は硫安等の速効性肥料を摘採20～25日前までに、芽の動きに遅れないよう施用します。

カンザワハダニは乾燥傾向でやや密度の高い茶園で見られます。発生を確認し、地区の基準に準じ、葉裏にかかるよう早めに防除します。

#### ■4 摘採及び製造

大震災と景気低迷もあり、価格低迷が懸念されますが、基本は良質茶の生産です。降灰対策もあり、工場の能力、経費（燃料費）と生育状況や雨天を考慮し、早めの計画摘採が大切です。被覆は5～7日間前後で摘採遅れに注意します。製茶時の茶温管理を守り、欠陥のない荒茶製造に努めましょう。

降灰対策と整枝後の晩霜害防止、摘採・製茶時のトラブル回避のため、防霜施設、茶工場、作業機械等の事前の清掃・整備等の再チェックをしましょう。また、除灰や落ち葉等の除去による異物混入対策にも万全を期してください。

（岩切健二）

### ◆ しいたけ

---

#### ■1 選別

乾しいたけは、用途に応じて取引されるので、商品価値を高めて販売するためにも、規格表を参考に必ず選別を行います。特に、次の点に注意しましょう。

- ① 異物（虫、金属類等）は絶対入れない。
- ② 乾燥不良、虫害、カビ、黒子など規格外品は絶対に混ぜない。
- ③ 3 cm 以下は他のサイズに混ぜない。
- ④ バレと縁に巻きがあるものを混ぜない。
- ⑤ できるだけ種菌、採取時期、日和子、雨子別に行う。
- ⑥ 丸形と変形とは区別する。

⑦雨の日など湿度の高い時には行わない。

## ■2 箱詰め

箱詰めは、最初からたくさん入れずに、まず2分入れて揺すり込み、さらに4分、6分、8分と入れ、最後に11分ほど入れて丹念に揺すり込みます。箱詰めがゆるいと、輸送途中で欠け葉を生じ、商品価値の低下をまねく恐れがありますので注意が必要です。

(田中 貴司)

## ◆葉たばこ

---

今月から本畑作業が本格的に開始になります。適期、適切な作業に努めましょう。依然、新燃岳の降灰も続いております。降灰のあった地域の皆様方は、生育阻害が発生する場合がありますので、小まめな灰の除去を行いましょう。

- 1 土寄作業が開始になります。移植後1ヶ月を目処に行いましょう。
- 2 降雨・降灰後には、ほ地の見周りを実施しましょう。湿害防止のため、必要な場合は排水溝の手直しを行いましょう。降灰のあった一部地域の方は、排水溝内に溜まった灰の除去を行いましょう。
- 3 黄斑えそ病の防除については、近隣のジャガイモ等からの、アブラムシの飛来に注意が必要です。近隣農家と連携を図り、共同防除に努めましよう。
- 4 農薬使用については、平成23年度版葉たばこ用農薬の使用基準を遵守し、使用した農薬は「農薬使用実績票」に必ず記帳してください。
- 5 異物混入防止のため、ほ地内のマルチ片回収に努めましよう。また、収穫布のほつれ等も補修・更新を行ってください。
- 6 乾燥作業の準備として、乾燥室の点検を行ってください。また、貯蔵庫と周辺の清掃を徹底すると共に、セリコの設置を適切に行い、貯蔵害虫防除に努めてください。

(中島 周)

## ■内容の詳細について

4月の天候と農作業の詳細内容について。執筆は県営農支援課及び環境森林課、日本たばこ産業南九州原料本部が担当しています。各作物の病虫害の防除対策、気象災害の事前事後対策等の詳細は最寄りの支庁・農林振興局(農業改良普及センター)へ

「今月の天候と農作業」はホームページにも掲載しています。

(<http://mawi.sakura.ne.jp/>)



# なにに農業アラカルト

<宮崎県は農林漁業者等の6次産業化を応援します>

## ■1 六次産業化法が施行

3月1日に「地域資源を活用した農林漁業者等による新事業の創出等及び地域の農林水産物の利用促進に関する法律」（六次産業化法）が施行されました。「6次産業化」と「地産地消」の2本柱からなる法律で、新事業の創出や地域の農林水産物の利用を促進する施策を進め、農山漁村の活性化と国産農林水産物の消費拡大を目的としています。

## ■2 6次産業化とは

6次産業化とは、農林漁業者（第1次産業）が加工（第2次産業）や販売（第3次産業）にも事業展開し、そこから生じる新たな付加価値を農林漁業経営に取り込むものです。（ $1 \times 2 \times 3 = 6$ 次産業化です。）

6次産業化に関連する取組に農商工連携があります。農商工連携は農林漁業者と商工業者が連携し、互いのノウハウ等を活用して新しい商品やサービスの開発等に取り組むものですが、6次産業化の場合でも、生産から加工・販売まですべて農林漁業者だけでカバーしなければならないということではなく、自分の強みを発揮できるところまでやって、足りない部分を地域内の事業者と連携するなど、さまざまな形態が考えられます。

## ■3 六次産業化法のメリット

六次産業化法では、農林漁業者等が自らの生産物や副産物を用いた加工・販売の一体的な取組を支援するための様々な特例措置が設けられています。特例を受けるにはまず「総合化事業計画」または「研究開発・成果利用事業計画」のいずれかを作成し、農林水産大臣の認定を受ける必要があります。

事項	主な支援措置の内容
総合的なサポート	認定までの支援と事業実施期間中のフォローアップ
資金の融通	農業改良資金の貸付対象者の拡大、償還期間や据置期間の延長
価格安定制度	産地リレーによる野菜の契約取引の交付金対象産地を拡大
施設整備等の手続き	直売施設等を建築する際の農地転用等の手続きを簡素化
新品種の登録	新品種の品種登録に要する出願料等の減免

■ 4 認定を受けるには

「総合化事業計画」の場合、経営の現状や事業内容、経営改善目標などの必要事項を記入して提出し、適切な改善を図るものと認められれば農林水産大臣が認定します。

■ 5 相談窓口

九州農政局や宮崎県では、6次産業化に関する相談を受け付けています。「6次産業化について知りたい」、「6次産業化に取り組みたい」という方は次の機関にお問い合わせください。

窓口担当部署	住 所	電話番号
九州農政局生産経営流通部食品課	〒 860-8527 熊本市春日 2 丁目 10 番 1 号熊本地方合同庁舎	096-211-9624
宮崎農政事務所農政推進課	〒 880-0801 宮崎市老松 2 丁目 3 - 17	0985-22-3184
宮崎県地域農業推進課連携推進室	〒 880-8501 宮崎市橘通東 2 丁目 10 番 1 号	0985-26-7124
(社)宮崎県農業振興公社新農業支援課	〒 880-0913 宮崎県宮崎市恒久 1 丁目 7 番地 14	0985-51-2011

## 向こう 1 か月間における農作物の主な病害虫の発生量と防除対策

作物名	病害虫名	発生量	発生状況と防除対策
早期水稲	いもち病	—	置き苗は、いもち病の発生源や伝染源となるので早めに処分します。箱施薬をしていないほ場で、イネミズゾウムシの発生が目立ち始めたら粒剤の水面施用を行います。 スクミリンゴガイの生息数が多い場合は、捕殺あるいは粒剤を水面施用します。また、用排水路からの侵入を防ぐため、水の出入口にネットを設置します。
	イネミズゾウムシ スクミリンゴガイ	— —	
野菜・工芸作物	アブラムシ類	並	宮崎市（佐土原町）の黄色水盤トラップでは、平年並の誘殺数となっています。各種のウイルス病を媒介するので、早期発見・防除に努めます。
冬春きゅうり	べと病 うどんこ病 褐斑病	並 並 並	いずれの病害も平年並の発生状況ですが、罹病葉は伝染源となるので適宜摘葉し、ほ場外に持ち出します。 また、ミナミキイロアザミウマの発生がやや多くなっています。キュウリ黄化えそ病を媒介するので注意が必要です。栽培期間中の対処や栽培終了時の処理等について、防除情報を発表しています。
	ミナミキイロアザミウマ	やや多	
冬春ピーマン	うどんこ病 斑点病 黒枯病	並 やや多 前年、前々より少ない	いずれの病害も発生が多くなると防除効果が上がりにくいので、予防・初期防除に重点をおきます。また、罹病した茎葉は重要な伝染源となるので速やかに除去します。 アザミウマ類では、特にヒラズハナアザミウマの発生が多い状況です。気温の上昇とともにさらに増殖しやすくなるので、発生初期に防除を行い、中～多発生のほ場では短い間隔で定期的に薬剤散布を行います。
	アザミウマ類	やや多	
冬春トマト	灰色かび病 葉かび病 トト黄化葉巻病 (TYLCV)	やや多 並 —	灰色かび病の発生がやや多い状況です。加温機の稼働時間が短くなり、果実等が結露しやすくなるので、循環扇を作動させる等施設内環境の改善に努めます。 タバココナジラミ類は、気温の上昇に伴い活動・増殖が活発になります。近年、トマト黄化葉巻病などの本種によって媒介されるウイルス病が問題となっていますので、各人が防除を徹底し、地域全体の密度低下に努めます。
	タバココナジラミ類	並	
冬春いちご	うどんこ病 灰色かび病	やや多 並	株整理後の葉数が少なくなった時に薬剤散布を行うと効果が高まります。いずれも薬剤抵抗性が発達しやすいので、系統の異なる薬剤をローテーションで使用します。 特にオンシツコナジラミについては、地域により薬剤感受性の低下が確認されているので、地区の普及指導員や技術員の情報を参考にして防除する必要があります。
	ハダニ類 オンシツコナジラミ	やや多 —	
カンキツ	そうか病 かいよう病	— —	いずれの病害も、罹病した枝葉は重要な伝染源となるので徹底的に除去します。かいよう病は予防を原則とし、開花直前又は落弁期に防除します。 ミカンハダニは、発生初期に防除することがポイントです。
	ミカンハダニ	やや多	
茶	カンザワハダニ	やや多	薬剤抵抗性が発達しやすいので、系統の異なる薬剤をローテーションで使用します。

1) 「発生量」は、過去 10 年間の発生量と比較して、今後の発生量がどの程度になるか予測したものです。  
2) 病害虫防除・肥料検査センターのホームページアドレスは、<http://www.jpnpn.ne.jp/miyazaki>です。